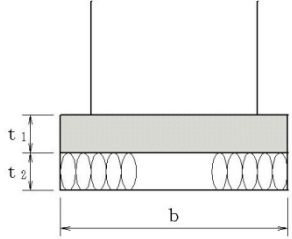
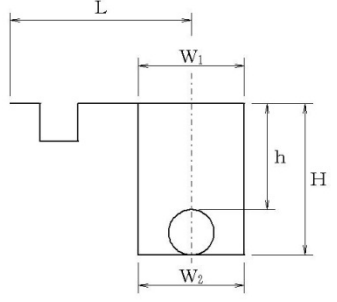
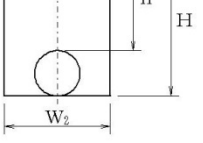


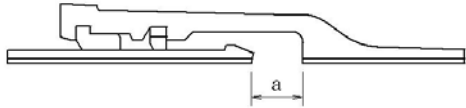
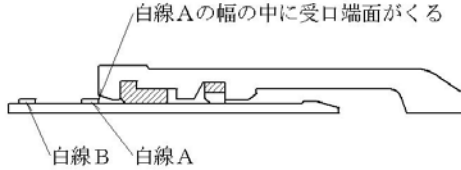
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
14 上水道編	1 管布設工事				基礎工 (基礎砕石) (捨コンクリート)	基準高 $\nabla$	—	測点毎に測定する。		
						幅 $b$	-50			
						厚さ $t_1, t_2$	-30			
						延 長	各構造物の規格値による			
14 上水道編	1 管布設工事	5 管布設工(開削)	3		管路掘削	深 さ $H$	$\pm 50$		<p>標準断面での規格値を示したものであり、地下埋設物により特殊断面となる箇所、既設管との連絡箇所等は除く。</p> 	ただし、任意の場合は除く。
						幅 $W_1, W_2$	$\pm 30$			
					管路埋戻	仕 上 高	$\pm 30$			
14 上水道編	1 管布設工事	5 管布設工(開削)	5 6		ダクタイル鋳鉄管・鋼管(ステンレス鋼管を含む)・ビニル管・ポリエチレン管	基 準 高	$\pm 30$	測点毎に測定する。(基準高は図面に表示してある場合)		
						土 被 り $h$	$\pm 50$			
						出 幅 $L$	$\pm 50$			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要																																																																					
14	上	水道	編	1	管	布	設	工	事	5	6	ダクタイル鋳鉄管 (継手接合)	<p>【胴付間隔(mm)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">呼び径</th> <th colspan="4">標準胴付間隔</th> </tr> <tr> <th>U</th> <th>UF</th> <th>S</th> <th>US</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>800</td><td>105</td><td>100</td><td>75</td><td>105</td></tr> <tr><td>900</td><td>105</td><td>100</td><td>75</td><td>105</td></tr> <tr><td>1,000</td><td>105</td><td>100</td><td>80</td><td>105</td></tr> <tr><td>1,100</td><td>105</td><td>100</td><td>80</td><td>105</td></tr> <tr><td>1,200</td><td>105</td><td>100</td><td>80</td><td>105</td></tr> <tr><td>1,350</td><td>105</td><td>100</td><td>80</td><td>105</td></tr> <tr><td>1,500</td><td>105</td><td>100</td><td>80</td><td>105</td></tr> <tr><td>1,600</td><td>115</td><td>110</td><td>75</td><td>115</td></tr> <tr><td>1,650</td><td>115</td><td>110</td><td>75</td><td>115</td></tr> <tr><td>1,800</td><td>115</td><td>110</td><td>75</td><td>115</td></tr> <tr><td>2,000</td><td>115</td><td>110</td><td>80</td><td>115</td></tr> </tbody> </table>	呼び径	標準胴付間隔				U	UF	S	US	800	105	100	75	105	900	105	100	75	105	1,000	105	100	80	105	1,100	105	100	80	105	1,200	105	100	80	105	1,350	105	100	80	105	1,500	105	100	80	105	1,600	115	110	75	115	1,650	115	110	75	115	1,800	115	110	75	115	2,000	115	110	80	115	<p>胴付間隔 a</p> 	<p>φ800以上の管接合に適用し、日本ダクタイル鉄管協会発刊の接合要領書参考資料の継手チェックシートに基づいて必要な測定を接合箇所全箇所について測定する。</p>
															呼び径	標準胴付間隔																																																															
U	UF	S	US																																																																												
800	105	100	75	105																																																																											
900	105	100	75	105																																																																											
1,000	105	100	80	105																																																																											
1,100	105	100	80	105																																																																											
1,200	105	100	80	105																																																																											
1,350	105	100	80	105																																																																											
1,500	105	100	80	105																																																																											
1,600	115	110	75	115																																																																											
1,650	115	110	75	115																																																																											
1,800	115	110	75	115																																																																											
2,000	115	110	80	115																																																																											
受口面-白線間隔			<p>T形、SⅡ形、NS形及びGX形管接合に適用し、日本ダクタイル鉄管協会発刊の接合要領書参考資料の継手チェックシートに基づいて必要な測定を口径ごとに、接合15箇所につき1箇所測定する。</p> 																																																																												

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要																																																
14	上水道編	1 管布設工事	5 6		ダクタイル鋳鉄管 (継手接合)	縮付基準トルク	+10% - 0%	<p>【受口部】 K形、S形、KF形、UF形</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">ボルトの呼び径</th> <th colspan="2">縮付トルク</th> </tr> <tr> <th colspan="2">N・m</th> </tr> <tr> <td>M16</td> <td colspan="2">60</td> </tr> <tr> <td>M20</td> <td colspan="2">100</td> </tr> <tr> <td>M22</td> <td colspan="2">120</td> </tr> <tr> <td>M24</td> <td colspan="2">140</td> </tr> <tr> <td>M30</td> <td colspan="2">200</td> </tr> </table> <p>堅ボルトについては、100N・mとする。</p> <p>φ600以上は全箇所、φ600未満は、口径ごと15箇所測定する。</p> <p>K形、S形、KF形、UF形、フランジ部継手接合に適用し、日本ダクタイル鉄管協会発刊の接合要領書参考資料の継手チェックシートに基づき必要な測定を口径ごとに、上表により測定する。</p>	ボルトの呼び径	縮付トルク		N・m		M16	60		M20	100		M22	120		M24	140		M30	200		<p>【フランジ部】 φ300以上は全箇所、φ300未満は3箇所に1箇所</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="3">ボルトの呼び径</th> <th colspan="2">縮付トルク</th> </tr> <tr> <th>RF形がスカート(全面)</th> <th>GF形がスカート1号</th> </tr> <tr> <th colspan="2">N・m</th> </tr> <tr> <td>M16</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>M20</td> <td>90</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>M22</td> <td>120</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>M24</td> <td>180</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>M30</td> <td>330</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>M36</td> <td>500</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>M42</td> <td>580</td> <td>〃</td> </tr> </table> <p>GF形(メタルタッチ)の場合、フランジ面間に0.9mmのすき間ゲージが入ってはならない。</p>	ボルトの呼び径	縮付トルク		RF形がスカート(全面)	GF形がスカート1号	N・m		M16	60	60	M20	90	〃	M22	120	〃	M24	180	〃	M30	330	〃	M36	500	〃	M42	580	〃	
ボルトの呼び径	縮付トルク																																																									
	N・m																																																									
M16	60																																																									
M20	100																																																									
M22	120																																																									
M24	140																																																									
M30	200																																																									
ボルトの呼び径	縮付トルク																																																									
	RF形がスカート(全面)	GF形がスカート1号																																																								
	N・m																																																									
M16	60	60																																																								
M20	90	〃																																																								
M22	120	〃																																																								
M24	180	〃																																																								
M30	330	〃																																																								
M36	500	〃																																																								
M42	580	〃																																																								
14	上水道編	1 管布設工事	5 6		鋼管(ステンレス鋼管含む) (継手接合)	ルートギャップ S 溶接目違い b		<p>【目違い量及びルートギャップ値】</p> <table border="1"> <tr> <th>溶接区分</th> <th>板厚(mm)</th> <th>目違い量</th> <th>ギャップ</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">片面溶接</td> <td><math>t \leq 6</math></td> <td>1.5mm</td> <td rowspan="3">1~4mm</td> </tr> <tr> <td><math>6 &lt; t \leq 16</math></td> <td><math>t \times 25\%</math></td> </tr> <tr> <td><math>t &gt; 16</math></td> <td>4.0mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">両面溶接</td> <td><math>t \leq 6</math></td> <td>1.5mm</td> <td rowspan="3">0~3mm</td> </tr> <tr> <td><math>6 &lt; t \leq 20</math></td> <td><math>t \times 25\%</math></td> </tr> <tr> <td><math>20 &lt; t \leq 38</math></td> <td>5.0mm</td> </tr> </table> <p>溶接継手チェックシートに基づいて測定する。</p> <p>φ75~φ250までは10箇所に1箇所、φ300~φ450までは5箇所に1箇所、φ500以上は全箇所測定する。</p>	溶接区分	板厚(mm)	目違い量	ギャップ	片面溶接	$t \leq 6$	1.5mm	1~4mm	$6 < t \leq 16$	$t \times 25\%$	$t > 16$	4.0mm	両面溶接	$t \leq 6$	1.5mm	0~3mm	$6 < t \leq 20$	$t \times 25\%$	$20 < t \leq 38$	5.0mm																														
溶接区分	板厚(mm)	目違い量	ギャップ																																																							
片面溶接	$t \leq 6$	1.5mm	1~4mm																																																							
	$6 < t \leq 16$	$t \times 25\%$																																																								
	$t > 16$	4.0mm																																																								
両面溶接	$t \leq 6$	1.5mm	0~3mm																																																							
	$6 < t \leq 20$	$t \times 25\%$																																																								
	$20 < t \leq 38$	5.0mm																																																								

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
14	上水道編	1	5	6	配水管ポリエチレン管 (EF 融着継手)	インジケータの隆起		両側とも＋方向に隆起する。		配水管ポリエチレン管の EF 融着継手に適用し、配水管ポリエチレンパイプシステム協会の EF 接合チェックシートに基づいて必要な測定を接合箇所全箇所について測定する。  E F 正常融着 (インジケータが両方隆起すること) 
14	上水道編	1	6	7	小型推進・推進	基準高	±50	管 1 本ごとに測定する。 直押しの場合、規格値以内であっても「許容曲げ角度」を超えてはならない。 又、鞘管推進工法の場合鞘管で管理するが、規格値以内であっても内挿管の布設に支障があってはならない。		
						垂直方向	上下 50			
						水平方向	左右 50			
						各スパン延長	±100			
14	上水道編	1	12		通水試験	水圧試験	0.40 MPa以上	配水管ポリエチレン管の継手 0.50 MPaで24時間測定。	0.75 MPaの水圧を負荷して5分間経過後、0.75 MPaの水圧を再負荷する。その後、すぐに0.50 MPaまで水圧を減圧して24時間放置し、その結果水圧降下0.10 MPaまでを許容値とする。  水圧試験成績表に基づいて、水圧データを記録整理する。	
							0.40 MPa以上	呼び径900 mm以上の直管部継手 0.50 MPaで5分間測定。		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

						0.45 MPa以上	呼び径 300 mm～900 mm未満の継手 0.50 MPaで5時間測定。	試験時間は、管内満水後加圧ポンプにより加圧し、水圧が上記指定水圧に達したのを確認し、自記水圧計を連動させ、そのままの状態です時間放置し、その結果水圧降下0.05 MPaまでを許容値とする。但し、0.05 MPa以内の範囲で3時間以上同一圧力を支持すること。 (但し、記録シートは原則として1.0 MPa、24時間記録用を使用すること。)
						0.65 MPa以上	呼び径 300 mm未満の継手 0.70 MPaで5時間測定。	
						0.70 MPa以上	割丁字管取付箇所 0.75 MPaで5分間測定。	
14 上水道編	1 管布設工事	13 付帯工	3	路盤工 アスファルト舗装 コンクリート舗装 ブロック舗装 常温合材舗装（簡易舗装）			第3編土木工事共通編第2章第6節 一般舗装工に準ずる。	